

音楽の隠れ家/絹ヶ丘 第23回

2007年 2月 12日 (月・祭)

この会は皆様の募金により続けて参ります。 入口付近の募金コーナーにお気持ちを入れて下さいますと幸いです。

午後11時00分～ プレコンサート

プレコンサートとしてチェンバロ学習者等の発表会を行います。どなたでも、お気軽にお出かけ下さい。イタリアンヴァージナル等を使用する予定です。

午後1時30分ごろ～ クラヴィコードコンサート

大塚直哉

Johann Jacob Froberger (1616～67) フローベルガー 組曲二長調 他

午後2時00分ごろ～5時まで ワークショップ『クラヴィコードを弾いてみよう』

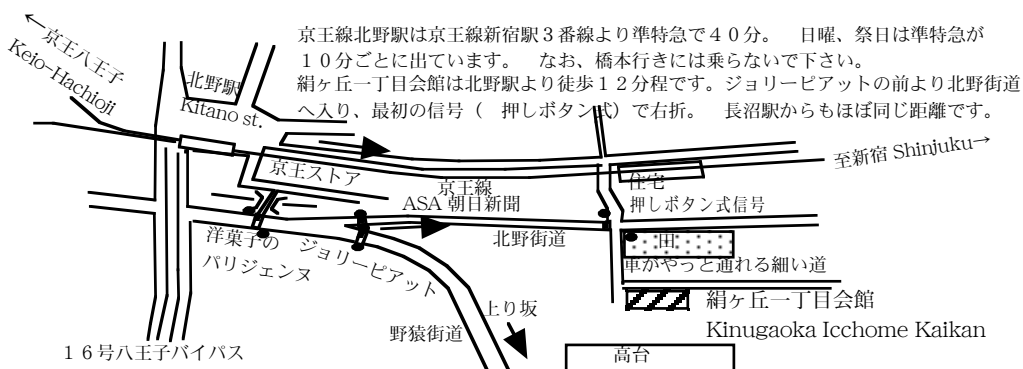
計10名 程度 (要予約)

大塚直哉

バッハの小プレリュードやインヴェンション、ベームやモーツァルトの変奏曲など、普段ピアノやチェンバロ、オルガンで弾いている17～18世紀の作品をクラヴィコードで弾いてみよう、というワークショップです。クラヴィコードは弦の振動を指で微妙にコントロールしなくてはならないので、奏者の指を敏感にすると言われており、昔から鍵盤楽器奏者はこの楽器で修練するように勧められてきました。

軽量で音も小さいので、作曲家たちが身近に置いて、自分のインスピレーションを深める道具としても重要な役割を果たしてきました。この静かで、かつ豊かな世界をぜひ体験してみませんか。鍵盤楽器を弾いた事が無い方は五線紙(自作可)を一枚ご用意下さい。(なお、小型のチェンバロ、小型オルガンも用意できますので、これらの楽器でのレッスン、並びに、これらを用いた、通奏低音、アンサンブルでのレッスンを希望される方は、事前に下記へご相談下さい。)

於 絹ヶ丘一丁目会館 八王子市絹ヶ丘1-5-7



～クラヴィコードはこんな楽器～

クラヴィコードは、キーの奥に取り付けられた金属片で弦を突き上げ、そのショックで弦が振動し、その振動を響板上のブリッジで拾って、音にする鍵盤楽器です。ピアノではキーを押すと、ハンマーが弦をたたきます。また、チェンバロでは、キーを押すと、小さなつめが弦を弾きます。これに対し、クラヴィコードでは弦を突き上げた金属片(これをタンジェントと呼びます)はキーを押している間、弦を突き上げています。つまり、このタンジェントは弦振動の一方の支点になっているのです。この事が他の鍵盤楽器と決定的な差異を生む事となります。キーから指をはなすと、キーは戻り、タンジェントが弦から離れ、弦振動の支点が無くなりますから、その振動は止まります。より正確に言うと、タンジェントの左側にあるフェルトによって、この振動が完全に止められます。この様に、クラヴィコードにはピアノやチェンバロの様なアクションが無いために、キーを押している間、指はキー、タンジェントを介して、弦と間接的に触れているため、弦振動が指まで伝わって来ます。また、上記の様に一音一音微妙なコントロールが要求されるのも、このような構造に起因します。

申し込み、問い合わせ 〒192-0912 八王子市絹ヶ丘1-38-1 山野辺暁彦 tel & fax 042-635-3784